



平成24年2月13日

卓話 『Persistence Matters』

フォトジャーナリスト

アリソン・クウェッセル様



私は今、国際基督教大学に在学しています。ロータリーのフェローとして、今日はポリオのことについてお話をさせていただきたいと思います。

ポリオはほとんど撲滅されたと言われますが、アジア、アフリカ、中東の国ではまだ5歳以下の子供たちに散見されます。根源にあるのは社会の不衛生、さらにその元は貧困が原因とされており、私はこのポリオ撲滅キャンペーンに過去2年間、関係していますが、とにかく病気の初期のアプローチが非常に大切だと思います。ポリオ菌が体に入ると脳に入って呼吸障害を起し、死にいたる病気です。ロータリー・クラブは1985年から88年に亘ってポリオの大撲滅キャンペーンを行いました。そのキャンペーンで託されたお金は、そのオペレーションに多大な貢献をしています。歴史的にもポリオは世界的な困難な病気です。1985年にはポリオはまだ世界の125ヶ国で35万人以上罹患していました。

来週行われるポートフォリオのイベントではいろいろな団体がサポートして下さるということです。ロータリー・クラブのこの問題に対するサポートは世界的に大きな寄与をしていると、私は確信しています。ロータリー・クラブが主体となって、それぞれの政府やいろいろな団体に呼び掛けをしました。その一番顕著なところは、マイクロソフトのビル・ゲイツさんのファンドにもそのお話をさせていただいたことです。日本のロータリアンの皆さんは、まさにポリオのこの私のプログラムのためにインドに来てくださいました。私は非

常に感激し、感銘を受けております。

私がよく聞かれるのは、いろいろな病気があるのに、なぜあなたはポリオに執着するのかという質問です。とにかく一つでもこの世から問題を根

絶しないと、その次の問題に向かって行けない。そんな気持ちで私は活動しています。衛生の問題、貧困の問題があるところにポリオは存在しています。そのポリオに立ち向かうことで、社会衛生、公衆衛生の問題を改善していく一助になればという思いで、私は活動を続けております。ニューデリーの一番大きなスラム地域には約2万人の人々が居住しています。水の供給がなく、各家庭あたり桶二つの水を政府が支給しています。もちろんそれだけでは足りない、桶の水をリサイクルして使ったりしています。ここの子どもたちは非常に貧しいところに生まれておりますが、たまたまそういう環境のもとに生まれてしまっただけで、決して彼らの責任ではないわけです。

この1年、インドでポリオの発症がありませんでした。これは歴史上初めてのことです。あと3年様子を見て、本当に発症がなければ撲滅宣言が出されるかという状況です。今年4月、また大阪や東京のロータリアンと一緒に行ってその日を迎えたいと思っています。ロータリーピースフェローの皆様、ありがとうございました。

